

平成27年1月18日
(2015年)

平成25年度吹田市立博物館事業評価報告書

吹田市立博物館協議会
委員長 一瀬 和夫

吹田市立博物館の平成25年度事業評価について吹田市立博物館協議会では平成26年5月30日および平成26年10月24日の協議会において慎重に審議した。その結果について吹田市立博物館がめざす活動目標に沿って報告する。

1 展示 総合評価点 3.58点

詳細は別表平成25年度事業評価点(1-①～②)を参照

(1) 常設展示

常設展示については、平成24年度企画展示秋季特別展「ニュータウン半世紀展—千里発・DREAM—」の成果を展示につなげたことは評価できる。ただし、リニューアル計画が未検討のままになっている。少なくとも、具体的な構想案を早めに出す必要があるだろう。

(2) 企画展

① 春季特別展『大僧正行基展 なぜ菩薩とよばれたか』(4月20日～6月2日)

吹田と行基との関係については、一般にはあまり知られていないが、この展示で両者の関わりが広く理解されたことは評価できる。また、来館者の満足度も高く、充実した展示であった。なお、展示史料に現代語訳をつけてほしかったという来館者の声があったが、是非耳を傾けるべきであろう。

② 第1回企画展示『吹田村庄屋 気比家絵画展』(6月15日～7月7日)

10点の初公開作品を展示しており、全体的に見応えがあった。ただ、気比家の歴史や吹田村の中での同家の位置づけなどにもっと留意すれば、より充実したものになったと思われる。なお、事業報告書では、イベント「大坂画壇座談会」の具体的内容が、イベント「古民家フォーラム」に較べてあまり明確でなかった。展示評価の手掛かりにもなるものであるので、もう少し詳しく記載する必要がある。

『吹田村庄屋』など独特な素材は、同様な素材をきめ細かにシリーズ的に行うことで将来的に吹田の具体的な過去の表現に厚味をもたらすものと期待される。

③ 夏季展示『あそび大はっけんーみんなで博物館に行こうー』(7月20日～8月25日)

身近なテーマではあるが、現代社会の深刻な一面をえぐり出す試みでもあり、視点としてはすぐれている。また、外部の展示企画専門家の協力を仰いだことも、準備段階の工夫とし

て評価できる。ただ、テーマの身近さや親しみやすさに頼りすぎ、現代のあそびが抱える問題点がどの程度明らかにできたのかという点については、やや不安が残る。

④第2回企画展示「さわって楽しむはくぶつかん in すいた」（9月8日～9月29日）

見ることに限定されない展示のあり方を追求し、今後の博物館のあり方を探ろうとした意義深い企画であり、館蔵品の有効活用、市民との連携という二つの点において、ユニークな企画として評価できる。博物館実習生が展示企画に参加したことは、実習生の体験という意味でも、また、非学芸員の視点を反映させたという意味でも意義があったが、反面、腰を落着けた展示ができなかったという点では問題を残した。

ただし、「さわって楽しむ」というコンセプトの下、さまざまな資料を幅広く（＝ランダムに）集める「啓発」の段階はそろそろ終わったのではないかと感じる。各地のミュージアムで「さわる展示」に取り組む例も増えており、今後はどこで「吹田らしさ」を出すのがポイントとなるだろう。

また「さわっても楽しむまでは難しい」という指摘どおり、博物館の伝えたいことを助けるためにさわるという展示表現にならなければ、むしろ展示を理解するためにはわずらわしいノイズとなる可能性がある。吹田市を具現化するというこの博物館の本質的な使命と向き合った上で、その表現の一つとして必要なら採用するという気構えがまず望まれるところである。むしろ、企画展でまとめるような展示表現装置でなく、どの展示についても、必要なら、その理解を助けるための装置として用意するものである。そういった性格の装置として認めるならば、やはり展示テーマになるのはおかしいということになる。

実験展示を含めると、吹博での「さわる展示」の実施は2015年度で10回目を迎える。「さわる展示」は社会的意義も大きく、吹博の特徴的な事業として継続すべきだと考えるが、過去の実績を踏まえた上で、2015年度以降の方針、館内での位置づけを再検討する必要があるのではなかろうか。

⑤秋季特別展『交通の20世紀—吹田操車場と名神高速—』（10月12日～12月1日）

吹田操車場と名神高速に注目することで、吹田が近代の貨物輸送の歴史において大きな役割を果たしていたことが多くの人々に認識されたとことは意義深い。また、展示がきっかけとなって、多数の関連資料が寄託・寄贈されるとともに、関連情報も多く寄せられたとのことであるが、これは展示が資料の発掘や情報提供につながることを物語っており、その点でも意義があった。ただし、今後、これらをいかに有効に活用するかが課題となる。

また、展示に至るまでの基礎調査不足の感がある。つまり質的な問題があり、展示内容に偏りが指摘されるのはその現れとなるだろう。

⑥特別企画「むかしのくらしと学校」（12月10日～4月6日）

市内小学校においては、小学校3年生における社会科のカリキュラムの1分野として定着しており、多くの学校の年間行事の1つに位置づけられている。普段ふれることのない、むかしのくらしに接することができ、貴重な体験となっている。内容も年々充実し、「あかり」の講義も工夫され、児童の関心を高める中身となっている。そのため見学した児童の満足度

も増していると感じられる。長年見学していなかった学校からの見学が復活したことも喜ばしい。今後も続けてほしい。

引率の教員にとっても、未経験なものが多くなってきており、その伝達は展示の一層の充実とともに大きな課題である。しかしながら、交通の便が悪く、見学に来られない学校もあり、学校へ出向く出前授業にもより積極的に取り組んでいただきたい。

特別展・企画展は全体に単発という感がぬぐいきれない。中期的に相互がテーマ性や関連性を持ち吹田の独特な顔を見せるような蓄積ある展示が望まれる。現在の常設展示の質と内容、表現をふくまます方向性をもつもの及び、吹田の本質を問う、示す関連をもった吹田市立博物館の展示の蓄積を期待したい。

2 市民参画 総合評価点 3. 13点

詳細は別表平成25年度事業評価点（2-①～③）を参照

市民のニーズを把握するには先ず博物館に馴染んでもらい、博物館の全体像を理解してもらうことから始める必要がある。そのためPTA等市民グループ、団体メンバーの来館、団体鑑賞の促進に力を入れる必要がある。例えば団体やグループの会合を博物館内でしてもらい、そのあと館の見学、鑑賞に結び付ける企画等である。こういう会合での意見収集はやりとりも出来、有効であると思われる。

企画展の市民参画は充実している。特に夏季展示では、「自然と環境」を主テーマとし、5年間にわたって公募による市民実行委員により企画・準備・運営が行われているのは素晴らしいことである。また、「さわって楽しむ博物館 in すいた」で、点訳・音訳等のボランティアグループとイベントや展示案内で連携をとっていることも評価できる。しかし、市民参画は年齢別等での偏りが見られ、一層の対応がほしい。

ボランティアについては、活動日数や参加者数が増えているのは喜ばしいことであるが、今後の継続的なボランティア活動のためにも、ボランティア登録人数を増やす努力をしていくべきである。また、今後のボランティア組織のあり方について検討中とのことなので、合わせて検討していただきたい。ボランティア研修制度のより充実化が望まれる。

市民参画に関しては項目全体に検討が多すぎる。市民のイベント、講師参画など、単発なものが多いように感じられ、蓄積される実りのある事業が期待される。ボランティアも同様であり、市民・ボランティア発案のグループ活動も必要である。独自の展示開発や周囲の紫金山公園の活用などを育てる必要があろう。

3 地域学習の拠点 総合評価点 3. 49点

詳細は別表平成25年度事業評価点（3-①～②）を参照

「こども、若年層のイベント」においてはゴールデンウィークや夏休みを利用し、各種イベント立ち上げに意欲的に取り組んでおり、長期休暇期間のイベントの数と参加者が増加している。イベントの準備において種々創意工夫が講じられており、大いに評価できる。子ども

も、若年層の参加者増加は将来への礎となるので今後も努力が必要かと思う。

「出前講座・依頼講座」は、年間開催件数 32 回、毎月 3 回弱の割で公民館や市民センター等で開催されており、その回数の多さと積極性には頭が下がる。市民に公開されている「出前講座のしおり」等に基づく聴きたい講座が自由に選択でき、また市民の提案テーマに対する講義要請を柔軟に受け入れる等、市民目線に立って実施される講座は市民の地域学習に大きく寄与している。地域学習の拠点としての役割をさらに重要視して、博物館の存在価値を認めてもらうように学校だけでなく市民の中へも入ってゆく、努力を継続すべきである。

「レファレンス業務」は情報拠点としての博物館の存在感が示されている。76 件の対応件数が上がっているが、市民との対応を適切に、親切に、正確にすることによって博物館の利用を大いに促す。しかし、博物館がこの業務に携わっていることを知らない市民は今なお多くいると思われる。博物館窓口や出版物への刷込にこの業務を案内表示することは有効と思われる。ただ従来の「来館・電話対応」では速やかな回答を求められる場合が多いので、今後の増加と担当者不在の場合の時間的な観点から受付は E メールかファックスによる限定対応が望ましいと考える。特別利用と合わせてこのサービスがわかるような表示及び web での利用案内の準備を進めていただきたい。

特別利用は、多くの人に博物館所蔵資料を様々な面で利用してもらうよう便宜を図ることで重要であり、さらなる充実が望まれる。

「他の施設・団体との連携」に関しては、アウトリーチ、特別展に際しての JR などの企業体との協力関係構築、歴史街道などを通じたマスコミとの接点、文化財指定住宅などとの共同事業など、様々な機会を通じての努力を感じるところである。各項目を高く評価したい。

特に北大阪ミュージアム・ネットワークにおいてはシンポジウムに加え、新たに北大阪ミュージアムメッセを開催し、ネットワークの紹介・強化等に向け前向きに行動しており、積極的な地域連携事業を着実に進めていることを示すものとして評価できる。一過性のイベントでなく博物館間のノウハウ交換や相互理解につながるようなさらなる発展を期待したい。また、北大阪ミュージアム・ネットワークだけでなく、吹田は淀川水系でも発展し、その淀川水系に関係する他市と連携を結んで淀川水系ネットワークで淀川の文化（地域文化）を考えることも一考かと思う。

歴史街道推進協議会の西国街道連携事業においては、他の博物館との連携による「西国街道」を軸にした広域にわたる歴史文化を市民に伝える事業に積極的に取り組まれている。この事業は各地域の市民が空間的にほぼ同時期にそれぞれの歴史文化享受できる数少ない機会であり、今後とも広域連携を着実に継続させていくことによって、より一層多くの市民の支持が得られるものと期待する。

博物館利用講座・バックヤードツアーは展示場だけの公開でなく博物館の役割を知ってもらい、博物館に親しみをもってもらうためにも博物館の建物について見てもらうことが必要かと思う。

「アンケートの調査・集計」については、イベント満足度を展示アンケートから抽出し、

イベント満足度・リピート率の両面から各業務の内容を分析し、とりわけ出前講座・レファレンスなどにおいては博物館の存在感の高まりを確認した点は有意義であった。ただ、満足度の指標にとどまらず少数の意見も含めた分析を期待したい。また、他業務の分析結果が不明の上に、それらの分析結果を今後の業務活動にどう生かすのか、別途言及する必要があるとともに、今後とも継続させる必要がある。

千里地域は古い集落とニュータウンの両者を含む、20 世紀後半の日本の地方都市の典型でもあり、その初期からの一つのモデルでもある。さらに、大阪近郊という立地でありながら、その開発過程の影響もありモザイク状の高齢化が進む地域でもある。社会的に分断されやすいそれら新旧住民を結ぶ場所として博物館が機能し得るのだろうか。

地域学習は子どもだけの課題ではない。歴史を知りたいシニア層だけのものでもない。地域の現代的課題としての「ニュータウン」の有り様、産業の趨勢は学生、教育や子どもの現状は、女性、都市計画行政など博物館を遠い存在と思いがちな属性を取り込むための重要なコンテンツでもある。そして、その背後に町の歴史を示していくことは困難ではあっても重要な課題である。

使命や目標の趣旨に照らし、中期目標の各項目の数字を追うだけでなく、よりよく地域学習の拠点として機能するためにどのようにそれぞれの事業が関連しているのかを示せる事が重要と考える。方向感を持った成果開示が市民の博物館への信頼をより高めてくれるのではないだろうか。

4 情報発信 総合評価点 3. 49点

詳細は別表平成25年度事業評価点（4－①～④）を参照

ホームページは、見やすさ・わかりやすさの視点からコンテンツの修正や内容の充実がはかられ、グレードアップし、たいへんよい。その結果としてアクセス数が増加し 30,000 件を超えたことは評価できる。

広報では、春季特別展でのマスコミを対象としたプレスツアーや、博物館利用者への DM の強化、市民ブログによる情報発信など、来館者増につながる積極的な取り組みについて評価できる。アンケート調査などをとおして実施効果の検証がおこなわれ、今後の新たな広報活動につながっていくことを期待したい。また、テレビ、新聞（特に四大紙）に取り上げられるような企画、誰もが行きたくなるような企画の立案、紹介される方法を考えて、市民だけに留まらず広く一般の方へアピールすることも重要ではないか。さらに、現代社会のマスメディアの新規参入は、著しいものがある。例えば、携帯電話での無料通話システムのラインや、スカイプ、カカオトークなどを使用した特別展示案内等の新しい情報発信ツールで来場者増させる事もできるのではないか。

資料の公開については、一般的な市民としては、例えば、中西邸や、西尾邸などのお宝画像がホームページなどで見れるよう、公開してもらいたい。博物館にはこれまで収集してきた館蔵品のほか古写真など多くの資料データが集積されているが、それらのデータベース化

とその公開に関して進捗が見受けられない。システムの完成を待たなくても、需要の高いところから順次公開できるよう、引き続き一層の努力を期待したい。

5 学校教育との連携 総合評価点 3. 6点

詳細は別表平成25年度事業評価点（5－①～②）を参照

小学校の社会科にとどまらず、中学、高校との連携をすすめている点は高く評価できる。小学校との連携に関しては、小学校3年生を対象とした社会科向け展示特別企画「むかしのくらしと学校」を開催され、児童にとって過去と現在のくらしと学校の様子を学ぶ機会を得たことは、大変有意義であった。保護者の皆さんにとっても各家庭等で、以前のくらしや学校を思い出されるとともに、展示を通して親子の会話も弾んだと思われる。また、展示内容等、学校と連携を図っていく中で要望等を受け入れていることは評価できる。

小学3年生へ「あかりのうつりかわり」、5年生への「米づくりの1年」の出前授業は児童にとって貴重な体験であったと思われ、出前授業のニーズは高いと考えられる。実績を重ねていっていただきたい。

中学校との連携については、近年、接触が難しくなっている中、豊津中学校と意見交換のうえ、吹田の歴史学習教材「吹田の歴史にふれてみよう」を開発、刊行していることは特筆すべき事柄である。中学校区の歴史が盛り込まれ、社会科の本質をとらえており、身近な教材として児童、生徒の興味・関心を高めることができることから、大きな意味があり今後も継続して取り組んでもらいたい。

また、各中学校が実施する「職場体験学習」について、快く生徒たちを受け入れ、生徒たちが学校を離れ、社会や職場を体験し就労について考える機会を与え、社会性を身につけるとともに、キャリア教育の観点からも教育的効果を期待する。中学校に限らず小、高校生にもその範囲を広げる検討に入っていただきたい。

小・中学校教諭を対象とした研修会については、学芸員の指導の下、教育センターと連携を図りながら、吹田の史跡を見学する歴史探訪を実施し、小・中学校教員が社会や歴史学習等の授業を実施する上で、教材等として大いに役立てることができたと思われる。こうした教員への研究会、研修は地域に根ざす博物館として重要な取組であり、一層の充実を期待したい。

高校との連携についても、困難な状況下のなか「高博連携」に取り組み、吹田高校へ出張授業及び博物館見学として地域社会研究を実施し、吹田市の地域的な特徴について、専門的な分野から講義したことは、高校生にとっても大変有意義であったと思われる。今後ワークショップ的な授業展開も期待したい。

このように、博物館と学校教育との連携を推進し、児童・生徒にとって、吹田市の歴史や文化及び郷土の貴重な遺産等を学ぶ機会を数多く与えており、教員にとっても教材研究及び授業力・指導力向上等に役立てることができるものであると期待する。

そして、このような取り組み等が、児童・生徒の郷土を愛する心の育成につながるもので

あり、引き続き、博物館と学校教育との連携を推進していただきたい。

6 資料の収集と保管 総合評価点 3. 57点

詳細は別表平成25年度事業評価点（6－①～④）を参照

資料の収集について、収集方針に沿いながら竹中家文書や近現代の分野で多数の資料が収集されるとともに、秋季特別展『交通の20世紀』の開催を契機に、吹田操車場や名神高速道路に関する資料が多数寄贈・寄託されるなど、地域の歴史を語るうえで重要な資料の収集が積極的に進められたことは高く評価できる。

新規収蔵資料の整理・登録は、歴史の大量資料も含めて着実に進められており評価できる。そのなかで、図書や古写真のデジタル登録・管理が進んでいるのに対して、収蔵資料のデジタル化が低迷している。資料の公開・活用のためにも、収蔵資料のデジタル化・データベース化を進めていくことが大きな課題といえる。

収蔵庫や館内の環境維持については、燻蒸庫燻蒸および館内モニター調査が定期的の実施されており、適切な環境維持が実現されているといえる。

西村公朝資料をはじめ、新たな資料の収集は博物館事業の根幹をなすものであり、そのために必要な収蔵庫の拡充は今後とも継続して取り組まなければならない重要課題である。西村公朝資料については館内の事情等に拘りすぎており、例えば市役所ロビー、校園、公共施設等での展示管理を検討するなど教育委員会をはじめ市全体で公開を前提とした取り組みも急務かと思われる。

7 調査研究 総合評価点 3. 5点

詳細は別表平成25年度事業評価点（7－①～②）を参照

企画展示の準備過程で関係の調査・研究が行われ、その成果が図録、『博物館だより』、『吹田市立博物館館報』、歴史講座などに適宜反映されている点は評価できる。

しかし、企画展示関連のものが中心で、未調査の市内旧家の古文書調査や目録作成などがおろそかになっているように思われる。これらは、地味で多大の労力を必要とする作業であるが、市域の歴史を明らかにし、展示に反映させる上でも、また、史料の散逸を防ぐ上でもきわめて重要であり、是非積極的に進めて頂きたい。

8 施設の整備・維持管理 総合評価点 2. 83点

詳細は別表平成25年度事業評価点（8－①～③）を参照

施設の維持・管理については開館から20年以上経ているので建物の劣化が進む中、施設を注意深く、何時も、見守っていく必要がある。

アクセスについては、JR岸辺駅の新築に伴い、以前の長い地下道を通らずに行けるのでより便利になったと思う。駅から歩くと所々に案内板があり、わかり易い。駅には地図もあ

り、いろいろな努力が伺える。

最寄りの佐井寺北の停留所名に（博物館口）と入れてもらえれば博物館の最寄り停留所であることが市民にも分るし、PR にもなるのではないだろうか。そして、この停留所に博物館への徒歩ガイド（道順）を掲出することが望まれる。

名神高速吹田サービスエリアからのアクセスは永年の課題であり、また、いろいろな面に関係することから継続課題である。サービスエリアの売店、トイレ、食堂等に博物館のポスター、チラシを掲出してはどうか。

9 社会貢献 総合評価点 4. 0 2 点

詳細は別表平成25年度事業評価点（9－①～③）を参照

歴史的な集落を抱えながら同時に万博・千里ニュータウンを含む吹田市域のアーカイブ化は日本の戦後の都市変容の普遍的な記録でもあるだろう。では、その普遍性をどのように発信するのか。博物館出版物や特別展による出版は博物館にアクセスするユーザーへの発信にはつながっているが、博物館から離れているユーザーへの知的刺激、コンテンツの提供には繋がっていない。日本全体への社会貢献として、もともといたものは、学会発表、インターネットなどのメディア、市販書籍などを通じた、社会への「吹田」から明らかになったことの発信ではないだろうか。業務としての範疇に求められることではないかもしれないが、学芸員としては将来の課題として期待したい部分でもある。

もちろん、博物館実習、JICA研修、インターンシップ、学会研究会などには相互作用による研修につながる部分もあることから、今後とも機会をとらえて活用し継続していかれることを期待する。

社会的貢献を狭く捉えず、博物館の活動が社会貢献にどう役だっているのか積極的に示してほしい。

*なお、活動目標ごとになされた総合評価点は学識経験者6名、学校教育関係者2名、社会教育関係者3名、市民公募委員2名からなる計13名の博物館協議会委員による事業計画ごとになされた5点満点の個別評価の平均点とした。

平成25 年度事業評価点

		事業計画	事業概要	自己 評価 点	評価 平均 点
1. 展示	①常設展 示	リニューアル計画の 検討	アンケートなどにより市民ニーズを調べ、リ ニューアル構想、参加型展示、バリアフリー 展示を検討していく。	3	2.8
		展示の更新	調査結果を展示に反映させるほか、館蔵資料 を積極的に活用したわかりやすい展示替え を行う。	4	3.4
		展示解説	定期的、要望に応じて展示解説を行う。	4	3.6
	②企画展 示	企画展中期計画の立 案	企画展の中期(5年)の展示計画を立案する。	4	3.7
		企画展の開催	春季特別展『大僧正行基展 なぜ菩薩とよば れたか』4月20日～6月2日	4	4.2
			第1回企画展示『吹田村庄屋 気比家絵画 展』6月15日～7月7日	4	4
			夏季展示『あそび大はっけんーみんなで博物 館に行こうー』7月20日～8月25日	4	3.8
			第2回企画展示「さわって楽しむはくぶつか ん in すいた」 9月8日(日)～9月29日(日)	3	3.4
			秋季特別展『交通の20世紀ー吹田操車場と 名神高速ー』10月12日～12月1日	4	4.1
			特別企画「むかしのくらしと学校」12月1 0日～4月6日	4	3.9
			26年度実施特別展示の準備	4	4
		出張展示	博物館外へ出向き、積極的に展示を実施す る。	3	3.3
		市民参画展示の実施 とシステム検討	市民参画展示の実施とシステムを検討する。	2	2.3
		各種の連携展示を実 施する	各種の連携展示を実施する	4	3.6
2. 市 民参画	①市民ニ ーズの把 握	アンケートの調査・集 計 来館者調査	アンケートの継続実施と分析を行い、展示、 教育普及計画を検討する。 来館者の実態を調査する。	3	3.3
		意見交換会の開催	意見交換会を実施する。	3	3

	②市民との協働・連携事業	市民キュレーター制度	市民キュレーター制度を検討していく。	2	2.1
		市民・市民団体・NPO等の教育普及活動への参画	春季特別展、夏季展示、秋季特別展、特別企画での教育普及活動に参画する。	4	4.2
			博物館トーク、講座の講師への参画		
		市民の協議会委員	市民が協議会委員として館の運営に継続して参画する。	3	3.3
	③ボランティア	特別企画への参入	継続して特別企画の展示企画、運営に参入してもらう。	4	3.5
		多様なボランティアの育成	多様なボランティア組織を育成する。	4	3.6
		ボランティア研修制度	ボランティア養成の研修プログラムを検討していく。	3	3.1
		ミュージアムエデュケーター制度	ミュージアムエデュケーター制度を検討する。	2	2.1
3. 地域学習の拠点	①地域学習の支援	子ども、若年層のイベント	ゴールデンウィークや夏休み期間開催の夏季展示に子ども向けイベントを実施する。	3	3.8
		アンケートの調査・集計	アンケートの継続実施と分析を行い、教育普及計画を検討する。	3	3.3
		博物館利用講座・バックヤードツアー	バックヤードツアーを継続的に実施する。	3	3.2
		出前講座・依頼講座	継続して出前講座・依頼講座に講師を派遣する。	4	4
		レファレンス業務	レファレンスサービスをわかりやすく表示する。 レファレンスサービスを継続する。	3	3.1
		特別利用	継続して実施する。	3	3.2
	②地域文化の情報拠点	他の施設・団体との連携	北大阪ミュージアムネットワーク事業を継続実施する。 歴史街道推進協議会による西国街道連携事業を実施する。	4	3.8
4. 情報発信	①ホームページの充実	ホームページのコンテンツの整理・拡充	情報を適切に更新する。	4	4.6
			豊富な情報を得る新たなコンテンツやアーカイブ機能を追加するなど使いやすいシステムへと変更する。	4	3.8
	②広報活動	博物館だよりの発行	継続して刊行する。執筆者の幅を広げ、さまざまな事業の紹介などにも活用する。	4	4.3

		広報活動の見直し	アンケートデータや事業内容などから広報活動に柔軟性をもたす。	3	3.3
		メディアへの情報提供	継続して情報提供をはたらきかける。	4	3.6
		年度当初の行事の公開	年間行事予定を公表する。	4	3.8
	③資料の公開	資料データベース	資料データベースの公開に向けてシステムを研究していく。	2	2
		蔵書データの公開、閲覧、複写	蔵書データベースをホームページに公開し、閲覧複写サービスを整備する。	3	2.8
	④博物館活動の公開	研究成果の公開	調査研究成果を館報・たよりなどの刊行物に公表する。	3	3.3
		事業報告・評価の公開	博物館の活動記録、自己点検、事業評価をホームページ、館報に公開していく。公開する。	3	3.4
5. 学校教育との連携	①利用の促進	特別企画「むかしのくらしと学校」の実施	小学校3年生社会科向け展示特別企画「むかしのくらしと学校」を継続開催し、あわせて学校見学の説明会や反省会をあわせて実施する。	4	4
		教員との研究会	小中高校教員との博物館利用に関する研究会を立ち上げる。(教員手引き・教材開発・学習プログラム等)	4	4.2
		小学校6年生社会科の博物館利用	小学校6年生社会科の博物館利用について検討していく。	3	3.3
		バックヤード見学の実施	子どもに博物館の役割を知り、親しみをもってもらうため、バックヤード見学を実施する。	3	3
		小中高へのプログラム検討	小中高と各段階に応じた学習プログラムを検討する。	3	3.2
	②学校教育への支援	出前授業	小学校3年生へのむかしのくらしに関して出前授業を継続して実施する。出前授業の教材を開発する。	4	4.2
		職場体験のプログラムを精査	職場体験のプログラムを精査する。	3	3.3
6. 資料の収集と保管	①資料の収集	資料収集方針の検討	地域性を示すコレクション形成のための資料収集方針を検討、収集する。	4	3.9
		市民への資料寄贈・寄託の呼びかけ	特別展のテーマに関連した資料の寄贈・寄託を市民へ呼びかける。	4	4
		古写真、フィルム収集	地域に残された古写真、フィルムを収集する。	4	3.9

		旧中西家・西尾家資料の収集	旧中西家・西尾家住宅と連携し、資料収集を行う。	4	4
	②収蔵庫	収蔵庫拡張を検討する	西村公朝資料の収蔵も視野に入れ、新たな資料収集に対応する収蔵庫の拡張を検討する。あわせて器具倉庫の設置を検討する。	2	2.3
		収蔵庫の環境維持管理	収蔵庫の環境を良好に維持管理する。薬剤を使用せず環境法に基づくモニター調査を行う。	5	4.3
		資料のくん蒸	新規収集資料をくん蒸庫にてくん蒸処理する。	4	4.1
	③登録・整理	資料の整理・登録	未登録、新規収蔵資料の整理、台帳登録を進める。	3	3.4
		資料記録のデジタル化	引き続き資料のデジタル化を進める。	3	2.7
		図書の整理、デジタル登録	引き続き収蔵図書のデータベース化を行い、公開する。	3	3.3
		古写真の整理・デジタル管理	古写真のデータを整理してデジタル管理を進める。	4	3.8
	④管理・修復	資料の修復	展示計画にそった資料の修復を行う。	3	3.1
7. 調査研究	①館独自の自主研究事業	調査研究事業の展開	調査研究成果を館の事業に反映させる。（公開展示事業・教材・展示手法の開発）	3	3.6
		調査研究	市域関連資料や企画展開催に向けた調査研究を実施する。	3	3.7
		研究成果の発表	調査研究成果を歴史講座、トーク等の口頭発表や館報・たよりなどの刊行物に公表する。	3	3.6
	②共同研究事業	外部機関との共同調査・事業	北大阪ミュージアムネットワークでの共同調査を実施する。連携展示を実施する。	3	3.1
8. 施設の整備・維持管理	①施設の維持・管理	展示機器の定期点検	展示機器の定期点検を継続実施する。	4	3.7
		機械室の設備更新	順次更新していく。	3	3
	②アクセス	名神高速道路吹田サービスエリアからのアクセスロード	引続き名神高速道路吹田サービスエリアからのアクセスを可能にするよう西日本道路株式会社と協議検討する。	2	2.4
	③ビジターセンター	ビジターセンターの建設	ビジターセンターの建設を検討する。	2	2.2

9. 社会貢献	①人材育成	博物館実習	継続して学芸員養成課程の博物館実習生の受け入れを行い、展示実習の成果を公開する。	4	4.1
		JICA 研修	継続して JICA 研修を受け入れ実施する。	5	4.5
		インターンシップ	インターンシップの受け入れプログラムを検討する。	4	3.8
	②講師派遣	大学非常勤講師	継続して大学非常勤講師を派遣する。	3	3.7
		講座・講演会講師	継続して講座・講演会に講師を派遣する。	4	3.9
	③学会、研究会等への支援	学会、研究会への支援	学会、研究会へ会場提供などの支援を行う。	4	4.1